

学年	教科等	題材名	日時
第1学年	音楽科	まねっこで“なかよし”	令和2年1月31日(金)3校時

子どもが主体的に音楽と向き合うための題材構成の工夫

【前題材】おとでよびかけっこ

【題材全体のねらい】音色やリズムを工夫して、音楽でお話をしよう。

呼びかけとこたえ

音色・リズム

【本題材】まねっこで“なかよし”

【題材全体のねらい】「まねっこ」と「なかよし」の違いを感じて表現しよう。

※ 本題材では、曲中に出てくる呼びかけとこたえの部分で「まねっこ」、声を合わせて表現する部分を「なかよし」と表現している。

呼びかけとこたえ

強弱・リズム・速度

【題材の教材曲とのつながりのある曲の挿入】

本題材では、子どもたちもよく知っている「アイアイ」を挿して扱った。「まねっこ」「なかよし」の部分が明瞭で、体を動かしながら相手の表現を「まねっこ」させたり「なかよし」で一致させたりすることで、まねっこのおもしろさやなかよしの一体感を味わわせることができた。

前題材から「呼びかけとこたえ」という音楽を形づくる要素で貫いて構成したことで、能力や経験にかかわらず、学びを獲得できるであろうという御意見をいただいた。実際に、前題材から扱っている「呼びかけとこたえ」は、子どもの反応や気付きも増えてきた様子が見られた。

豊かな表現をつくり上げるための対話の在り方

もりのくまさんってどんなくまさん？

(5番まで歌詞を見てみて) このお話に出てくるくまさんって、どんなくまさんだと思う？



突然出会ったから、もりの「びっくり」くまさんかな。

落とし物を拾ってくれているから、もりの「やさしい」くまさんだな。

表現の仕方を考えよう！

もりの「びっくり」くまさんにするためには、どのように歌ったらよいか？



声の大きさは中くらいがいいね。



「びっくり」だから、息をすうように歌ったらできると思う。やってみよう。

じゃあ、友達に尋ねたり、一緒に試したりしながら考えてみよう。

「やさしい」ってどうやって歌えばいいのかな？



なめらかできれいな声にすると「やさしく」なるんじゃない？ 「♪ある～ひ～」って。

伝わるかな？表現してみよう！

友達に伝えるか、試してみよう。上手に「まねっこ」「なかよし」ができるかな？



「♪ある～ひ」

「♪ある～ひ」

もりの「やさしい」くまさんなので、「♪ある～ひ」って(なめらかに)歌ってね。

みんなとやってみよう。

「♪あ・る～ひ・」

「♪あ・る～ひ・」

もりの「かわいい」くまさんなので、「♪あ・る～ひ・」と弾んで歌ってください。

みんな私の言ったように「まねっこ」してくれてうれしいな。

あ、同じ歌い方で「なかよし」ができると、なんだか気持ちいいな。

★授業をふりかえって★

前後期の反省を受けて個人の思いを表現する活動にしました。友達と一緒に考えられるように場を設定すると、自然と表現を試したり、自分の考えを伝えたりする場面が見られた。一方で、くまさんの設定を考えさせることで「歌唱」ではなく「音楽づくり」に近いものになっており、思考すること自体が難しいのではないかと御意見もいただいた。

御意見・御質問はこちら(研究部アドレス)

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

授業実践計画

○ 題材指導計画（4時間）

段階	主な学習活動及び学習内容	教師のかかわり	具体的な評価規準												
生み出す (1)	<p>※ 本題材では、曲中に出てくる呼びかけとこたえの部分を「まねっこ」、声を合わせて表現する部分を「なかよし」と表現している。</p> <p>1 「まねっこ」や「なかよし」の遊びをとおして、違いを感じ取る。 〈1時間〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「まねっこ」「なかよし」ゲーム ○ 『フルーツケーキ』の歌唱 ○ フルーツを変えた遊び ○ 題材のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>「まねっこ」や「なかよし」の違いやおもしろさを感じよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手の音をよく聴いたり、相手の音の鳴らし方をよく見たりするように声をかけることで、まねをしたり、声を合わせて表現したりする違いを実感できるようにする。 ○ 「まねっこ」「なかよし」ゲームの後に、「まねっこ」「なかよし」の部分の感想を尋ねることで、両者のおもしろさや一体感を感じ取ることができるようにする。 ○ 何度も歌わせたうえで、教師と交互唱をすることで、フルーツの部分を変える手順や、「まねっこ」と「なかよし」の部分が分かるようにする。 ○ 言葉の数が多いフルーツについては、どのように音楽に当てはめればよいか全員で考えさせることで、拍の流れにのせて演奏する感覚をつかむことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「まねっこ」と「なかよし」の違いに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、仲間と表現しようとしている。 (態度) 【観察】 												
挑む (2)	<p>2 グループ毎に『フルーツケーキ』のフルーツを変えて「なかよしケーキ」発表会を行う。 〈1時間〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ケーキのフルーツ決めと練習 ○ 「なかよしケーキ」発表会 <p>《言葉の当てはめ方の例》</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">り</td> <td style="text-align: center;">ん</td> <td style="text-align: center;">ご</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">●</td> <td style="text-align: center;">●</td> <td style="text-align: center;">●</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">パイ</td> <td style="text-align: center;">ナッ</td> <td style="text-align: center;">プル</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">●</td> <td style="text-align: center;">●</td> <td style="text-align: center;">●</td> </tr> </table> <p>3 別の教材で、「まねっこ」「なかよし」歌遊びをする。 〈1時間〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 『アイアイ』 ○ 『もりのくまさん』 	り	ん	ご	●	●	●	パイ	ナッ	プル	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで考えさせる際に、3拍のなかに言葉を入れて表現させることで、発表会の際には相手の表現を注意深く聴くことができるようにする。 ○ 『なかよし』になったときに、どのような感じがしたか。」と尋ねることで、一緒にそらえて歌ったときの一体感等を感じることができるようにする。 ○ 『アイアイ』では、振り付きで「まねっこ」させることで、全員が楽しみながら様々な『アイアイ』の歌い方を経験できるようにする。 ○ 『アイアイ』も『もりのくまさん』も、教師が速度や強弱等の要素を変化させて子どもと交互唱を行うことで、「まねっこ」と「なかよし」を変化させながら歌う楽しさに気付くことができるようにする。 ○ 『もりのくまさん』では、5番まで歌わせ曲全体の歌詞の内容を確認することで、次時の表現活動につなげることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「なかよしケーキ」発表会をとおして、呼びかけとこたえや声を合わせて表現するおもしろさを見つけて演奏している。 (知・技) 【観察・学習プリント】
り	ん	ご													
●	●	●													
パイ	ナッ	プル													
●	●	●													
本時 生かす (1)	<p>4 表現の仕方を変えて、もっと楽しく歌えるような「もりの□□くまさん」を考えて歌う。 〈1時間〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「もりの□□くまさん」の表現 ○ 「もりの□□くまさん」の発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 導入で、『アイアイ』を使って、「□□アイアイ」に合わせて速度や強弱等の要素を変化させる遊びを行わせることで、本時の学習に生かせるようにする。 ○ 個人でどのようなくまさんなのかを十分に考えさせた後にペアで考える時間を設ける。そうすることで、互いに意見を交流したり考え直したりしながら、自分の思いに沿った表現の仕方を見付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「もりの□□くまさん」に合った表現の仕方を考え、自分の思いを伝えたり、発表者の思いを聞き入れたりして一緒に表現している。 (思・判・表) 【観察・学習プリント】 												

○ 本時の目標

「もりの□□くまさん」にするにはどうしたらよいか考え、自分の思いを相手に伝えて、「まねっこ」や「なかよし」のところを一緒に表現することができる。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 『アイアイ』に名前を付けて遊びながら歌うことをとおして、本時のめあてをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「□□アイアイ」遊び (例)・ねむたいアイアイ ○ 本時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どのようなくまさんか考えて、みんなで楽しく歌おう。</p> </div> <p>2 本時学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 『もりのくまさん』の歌唱 ○ 本時の流れの確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「もりの□□くまさん」に合う表現づくり ・ お試しと見直しタイム (ペア) ・ 「もりの□□くまさん」の表現 (全体) <p>3 どのような「もりの□□くまさん」を表したいか考え、それに合った表現の方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分で表したい「もりの□□くまさん」づくり (例)「もりのげんきなくまさん」 <div style="margin: 10px 0;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ お試し・見直しタイム <p>4 みんなで「もりの□□くまさん」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「もりの□□くまさん」発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分の『もりのげんきなくまさん』は、はずむようにして大きな声で歌ってほしいな。(歌唱中または後) ……みんなが自分の言ったとおりにしてくれてうれしいな。最後もぴったり合っ、成功だ！」 <p>5 本時の学習をふりかえり、本題材のまとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「今日の発見」の発表と共有 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 最初は、教師からお題を提示して遊び、慣れてきたら子どもからお題を募ることで、子どもの思いを大切にしながら本時の活動の仕方をつかむことができるようにする。 ○ 『アイアイ』の後に前時をふりかえり、「出会ったくまさんはどのようなくまさんかな。」と尋ね、意見を出させることで、様々な様子が考えられそうだという意欲をもつことができるようにする。 ○ 出会ったくまさんの様子を尋ねた後に、くまさんと出会った時の気持ちも聞き、冒頭部分だけを表現させることで、本時の活動内容を見通すことができるようにする。 ○ 個人で表現を考えさせ、ペアやグループの形態にして仲間の活動の様子を見せることで、個人の活動のヒントとしたり、仲間の考えを基に、よりよい表現を見付けたりすることができるようにする。 ○ ペアの相手と、互いにつくった表現を聴き合い、アドバイスや感想を伝える時間を設けることで、自分の表現を追求するだけでなく、相手のよいところを取り入れることができるようにする。 ○ 表現づくりが進まない子どもには、くまさんと出会ったときの様子や気持ちを教師と話をしたり、仲間の様子を見るように促したりすることで、何をどのように考えればよいか分かるようにする。 ○ お試しタイムでは、相手に表現の仕方を伝えてからペアで表現させる。相手が思いを聞き入れて一緒に表現できたかをふりかえらせることで、よりよい伝え方を考えることができるようにする。 ○ 発表者が考えた表現を聴き手に「まねっこ」させることで、みんなが「まねっこ」してくれた喜びや、「なかよし」で声を合わせて表現することができた楽しさを感じることができるようにする。 ○ 「今日の発見」では、特に「まねっこ」と「なかよし」の違いによるおもしろさを感じている意見を取り上げ、価値付けることで、本題材で何を学習したのかを明確にすることができるようにする。

○ 本時の評価規準

「もりの□□くまさん」に合った表現の仕方を考え、自分の思いを伝えたり、発表者の思いを聞き入れたりして一緒に表現している。
(思考・判断・表現)【観察・学習プリント】